

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		公表日				
Gripキッズ柏校		2025年 4月 28日				
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		十分な広さと開放感があるようなレイアウトにしています。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、 職員の配置数は適切であるか。	○		最低配置人数+1～2名を配置し、目が行き届くようにしている。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		玄関、水回り、集団活動スペース、フリースペース等が明確に分かれており、バリアフリーとなっている。また、非接触型の児童蛇口やトイレも最新型の機能を取り入れている。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		活動スペースを分けつつ、壁を最小限にし、開放感のある空間にしている。清掃もしやすい配置で清潔感のある空間を維持できている。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		急な体調悪化の際は個室でソファベンチ2つをベッドにし、個室で横になれるようにしている。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	○		毎日の打合せと定期会議で可能な限り全スタッフ参加で取り組んでいます。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		保護者からの評価、意見はスタッフで共有し、特にネガティブな指摘については改善計画を立てている。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		日々の打合せや定期的なアンケートを通じて、業務改善に努めている。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	○		ガイドラインに沿って取り組んでいます。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		年内に翌年度の全ての研修計画・スケジュールを公表、スタッフで共有し、計画通りに実施している。	
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		施設の療育方針に沿った支援プログラムを作成し、保護者に事前に目的に同意を得ている。また、日々の集団活動で利用者が使用する「アクティビティシート」は連絡帳入れに封入し、保護者にフィードバックしている。」	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	○		ガイドラインに沿って取り組んでいます。	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		ガイドラインに沿って取り組んでいます。	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		計画作成時のみでなく、日々の療育開始前の打合せで細かく点検している。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		利用者別にノートを作り、スタッフが行動観察で気付いた些細なことも日々の療育後のミーティングで記録し、療育や支援計画の見直しに活かしています。	
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		ガイドラインに沿って取り組んでいます。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		年間予定を元に、児発管が週毎のアクティビティシートを作成し、日別の利用者の特性や学年構成や加味し、スタッフ全員の意見で日毎の内容を微調整し、確定させている。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		既定の週毎の療育テーマの中で、マンネリ防止のため、祝日や学校休業日に特別プログラムを実施している。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	○		個別支援は主に学習を通じて認知能力の向上、集団活動は規律性やコミュニケーション能力を養うことを主眼に計画を作成している。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		支援開始前の打合せでは1週間前の報告や備忘を再確認し、利用者別の接し方の再確認や、スムーズに活動が進むための席の配置などを再考している。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		支援終了後は、総評及び、課題や改善点を協議。当日出勤していないスタッフも共有できるようにノートに記録。	

	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		支援終了後に、当日の総評及び、課題や改善点を協議。また、利用者個々の気付いた点は利用者別のノートに記録し、スタッフで共有できるようにしている。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		年2回以上、決められた期間内に実施。計画は児発管の草案を元にスタッフ全員で協議し、確定させている。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせさせて支援を行っているか。	○		全スタッフで日々打合せ、取り組んでいます。	
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	○		自分がやりたいことを選択するというよりは、自分に必要なことを自分の意思で前向きに取り組めるようにする支援を重視しています。	
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		基本的には利用者の詳細を把握している児発管や施設長が参画している。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○			体制は整えているが情報共有が足りないので、積極的に関わりをもつように心掛けていきます。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	○			子供の下校時刻については保護者からの情報と学校の情報に乖離があり、何度か送迎業務が滞ったことがあるため、大きなトラブルが起きない様に情報の収集と管理を今一度徹底していきます。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	○		過去の支援計画書の取り寄せや電話による利用者の特性などを確認し、支援計画に活かしています。	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。		○		まだ開校3年目でそのような対象者はおりませんが、今後のために必要な準備をしています。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	○		対面で面談させていただき、その後、助言がほしいものは相談をさせていただいています。	
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。		○		保護者からは「必要ない」といった意見が目立ちますが、グループ内の他の教室の事例などを学び、取り組んでいきたいと思っています。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	○		可能な限り参加しています。	
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		気になることはすぐに連絡を入れ、スピード対応を重視しています。	
保護者への説明等	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○			グループ内の他の教室の事例などを学び、取り組んでいきたいと思っています。
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		体験時に保護者には丁寧に説明しますので、契約時は面談がスムーズに進んでいます。	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		ガイドラインに沿って取り組んでいます。	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	○		計画書の配布が目的にならないよう、詳細な説明と、少しでも疑問がある場合は質問を受け付け、保護者に方針を納得していただくことを意識させている。	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		面談以外に、何かあれば、施設への電話・連絡帳の保護者連絡欄・施設メール・施設長直通メール・連絡用チャット・など様々な連絡手段を設け、保護者からの相談をいつでも受けられるようにしている。	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機軸を設ける等の支援をしているか。	○			保護者会開催は賛否が分かれているので、有益な場であることを啓蒙し、安定開催を目指したい。イベントなどで兄弟の参加もオープンにしているが、もっと気軽に参加できる工夫をしていきたい。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		ガイドラインに沿って取り組んでいます。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○			発信力が不足しているので、発信回数や伝達手段を増やす予定です。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○			施設紹介サイトに掲載している写真は解像度を下げ対応しているが、一部の写真で加工が不十分との指摘あり、スタンプも使用し改善していきます。
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		ガイドラインに沿って取り組んでいます。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	○			グループ内の他の教室の事例などを学び、取り組んでいきたいと思っています。
	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		年内に翌年度の全ての研修計画・スケジュールを公表、スタッフで共有し、計画通りに実施している。	

非常時等の対応	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		年内に翌年度の全ての研修計画・スケジュールを公表、スタッフで共有し、計画通りに実施している。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○		契約時に文書で確認。その後服用の開始などあれば速やかに報告してもらっている。てんかん発作がある女兒の利用日は座薬投与の対応として女性スタッフを配置している。	
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○		対象者のおやつ提供には最新の注意を払っています。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○		年内に翌年度の全ての研修計画・スケジュールを公表、スタッフで共有し、計画通りに実施している。	
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○		契約時に安全計画に関する資料を説明とともに保護者に配布、周知している。	
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		仮に施設内で発生した際は最優先の共有事項、改善課題として位置付けています。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		虐待防止＋身体拘束適正化の委員会・研修・訓練は定められた回数実施している。施設としての専門知識を高めるため、強度行動強度障害支援者養成研修も２名が受講済でスタッフ全体の知識とスキル向上に努めています。	
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	○		ガイドラインに沿って対応しています。	